

この人、この組織

～四万十川源流点の村から～

自然と生活の調和した村づくりを求めて

～カウベル会^(※)(高知県東津野村)～

会長：野瀬覚謹 事務局長：熊田光男

――“カウベル”という名前は大変可愛らしいですね。名前の由来と、どういうきっかけで「カウベル会」が発足されたのか教えてください。

もともとは、四万十川の自然を活かした村づくりを考える生涯学習研究大会に「近自然工法」第一人者の福留脩文先生(西日本科学技術研究所(高知市)代表取締役)に御講演いただいたことが始まりです。

講演内容に大きなショックを受け、福留先生が毎年行かれている先進地スイスへの研修に視察団を同行させていただきました。帰国後、研修成果を一過性のものとせず、残していこうという声が起こり、研修参加者でカウベル会を結成しました。スイスでの印象的な牧畜風景・牛の首に掛かっているベル(カウベル)にちなんで名付けたものです。

――具体的には、どんなことに取り組みましたか。

最初の取り組みは、会員の一人が、自社の資材置き場の隣を流れる四万十川支流の護岸工事に、村の承諾を得て「近自然工法」を取り入れました。これは私費で行いました。その後、県の事業でも会の意見を取り入れた近自然工法による工事を行っていただきました。特に、私たちの働きかけで四万十川第二の支流・北川川の落差工(長さ30m、幅3m、高さ6mもの大規模な施設)を改修し、全国で初めて魚が上れるような河川に戻すことが実現したのは大きな成果です。



―「清流四万十川総合プラン21」表紙から―

――カウベル会は四万十川流域住民ネットワークにも参加されていますが、これからの抱負は?

福留先生の指導をいただきながら、勉強会を継続し、会員相互のつながりを保っていきたいと思っています。一人一人がそれぞれの集落の地域づくりを見直し、具体的な活動を起こしていくなかで、自然と生活の調和した村づくりにつなげていきたい。これからの村づくりは、住民の声を聞いて進めて欲しいし、住民団体も単に自然保護を訴えるのではなく、行政とともにどのようにしたらよいか話し合っていくことが重要だと思っています。

――源流点から流域へ、そして全国へ。今後の活躍を期待しています。

一口メモ

カウベル会

平成3年度から5年間に渡り「ふるさと創生事業」の一環として行ってきた”スイス農村視察研修”の参加者で結成(平成5年)。全5回の視察を終え、現在会員数46名。職業は農業、建設業、森林組合、役場職員など多彩。近自然工法に関しては村内土木業者らのアドバイザー的存在になっている。

会員の視野も広がり、若ものから新しい村づくりの取り組みも生まれてきている。

【連絡先：東津野村役場 民生課】
TEL 0889-62-2311/FAX 0889-62-3519

～四万十情報～

第六章以降の期間(11月10日～12月9日)での高知県の主要な取り組み

- ①第2回沈下橋保存方針検討会(11/17)
- ②第1回流域圏学会(四万十学会)創設検討会(11/27)
流域圏をベースとした新たな学会の創設を検討。
- ③第2回四万十川利用ルール検討会(12/2)
- ④佐賀発電所水利権更新公開調査会(12/7)
四万十川からの放流先である河川での流量調査を一般に公開。
- ⑤第2回「自然遡上可能な魚道の設置・改良」検討会(12/8)